資　料

実現会議の設置趣旨及び今後の取組について

（1）現状と課題

● 丹後地域の主な公共交通機関
- 鉄道　北近畿タンゴ鉄道（⑰行政支援見込額<=⑯欠損> 384百万円）
- バス　丹後海陸交通（⑯行政支援額 271百万円）
  他事業者、一部市町

① 各事業者ごとの課題

利用者が年々減少（モータリゼーション進展に伴う自家用車増、少子化に伴う人口減）

⬇

赤字補填を基礎とする「行政支援額」の増加

● 各事業者はこれまで、住民生活上必要な路線の確保とともに、経営努力
● しかし、利用者増まで至らず、地域活性化の観点も含め地元でも新たな取組進行中

ＫＴＲ	① 人件費・修繕費等の抑制 ②・「増収プロジェクト」（16年～） ・「経営改善検討委員会」（17年、KTR・府・沿線市町）	→ 企画商品の新規開発（まるごと丹後乗り放題切符等）
丹　海	① 経費節減 ②「ボンネットバス導入による定期観光バス」（16年～）	↑
沿線市町	① 市町単位の企画列車 ② 地元促進協「利用促進検討ＷＧ」（17年） ・「ＫＴＲサポーターズクラブ」（⑰中に立ち上げ） ・「ＫＴＲに乗る日」（毎月１日）	リンク ←

② 交通ネットワークとしての機能面の課題

●鉄道内や鉄道・バス間の接続が取れたダイヤ設定や、接続状況の情報等、交通ネットワーク全体の情報提供

（２）今回の新たな取組

公共交通ネットワーク全体を、更に利用者(住民）最適のものに改善していくため、「分かりやすく、使いやすい公共交通ネットワーク実現会議（丹後地域)」を設置

目的	▶　交通ネットワークは、「ダイヤ」、「車両」、「運賃」、「停留所（駅)」、「情報（時刻表、パンフ、ホームページ等)」等により構成されているが、それぞれの機能を今一度見直し、ネットワーク全体を利用者（住民）最適のものに改善 ▶　そのため、関係者が一体となって協議する新たな枠組み（実現会議）を設置し、いわゆる提案型でない「改善実行計画」を作成（できるだけ実験・試行計画も盛り込み）
視点	①住民にとってより良い「生活交通」　②観光を一層振興する「交通」

【スケジュール】

	実現会議	同ワーキンググループ
17年 11月30日	第１回 会議設置	＜随時、実態把握と検討・協議＞ (1)改めて、徹底した実態把握 ①ダイヤ・運賃・車輌・情報等、交通システムの項目ごとに、利用者の立場に立った「点検表（チェックシート)」を、作成のうえ、現地調査・検証 ②「利用実態調査」（委託調査） 鉄道・バスの全便・全区間を基本に、利用区間や年齢層の把握 (2)「改善実行計画(骨子たたき台)」の検討・協議
18年春	第２回 「改善実行計画（骨子案)」のまとめ	
	第３回　（利用者の視点に立って広範な協議を行うためメンバーを拡充） 幅広いメンバーに拡充し、骨子案を基に、実行計画作成に向け協議 ・利用者(住民)、その他交通・観光事業者 ・アドバイザー（国、学識経験者、ＪＲ西日本、旅行ｴｰｼﾞｪﾝﾄ）	(3)拡大ワーキンググループによる検討･協議 （必要に応じて、追加の実態把握) (4)「改善実行計画(素案)」の検討・協議
18年9月 （目標）	第４回 「改善実行計画」のまとめ ⬇ 実行	